

2017 年度全国生協連グループ社会福祉事業等助成事業

認知症のポジティブケア普及事業  
報告書

社会福祉法人浴風会  
認知症介護研究・研修東京センター

2018年（平成30年）12月

## 目次

目次	i
事業概要	ii
1. 目的	1
2. 方法	2
3. 結果	4
アンケート用紙	25
謝辞・事業担当者	26

## 事業概要

2017年度全国生協連グループ社会福祉事業等助成事業の助成金を得て、2018年（平成30年）1月～12月に、認知症のポジティブケア普及事業を行った。

認知症ポジティブは、①認知症になってもできることがあるという Dementia-capable の考え方と、②認知症にやさしい地域 Dementia-friendly community の二つを包摂する概念である。

認知症介護指導者を対象とした認知症ポジティブ！山口塾を全国17カ所で開催し（本文4ページの表1参照）、全体では認知症介護指導者ほか認知症介護に関わる専門職を含めて全体で1471名が参加した。

参加者の属性は本文4ページに示すように、認知症介護指導者が224名（26.8%）、それ以外が404名（48.4%）、未回答が207名（24.8%）であった。

参加者アンケート（本文26ページに掲載）を実施し、「認知症ポジティブ」への賛否を質問すると、87.9%が賛同、7.0%が少し賛同で、合わせて約95%となり、大部分の参加者から賛同を得られた（図1）。その理由については本文5～22ページにコメントを掲載した。

参加者アンケートでは、ポジティブケアの事例を尋ね、収集を行った。そして、代表的な事例を抜粋して、本報告書の本文23～25ページに掲載した。

本事業を実施した結果、認知症介護に関わる専門職に、認知症ポジティブの考え方を普及できた。我が国の認知症介護指導者約2400名の1割近くが受講し、認知症ポジティブの考え方を伝えることができた。

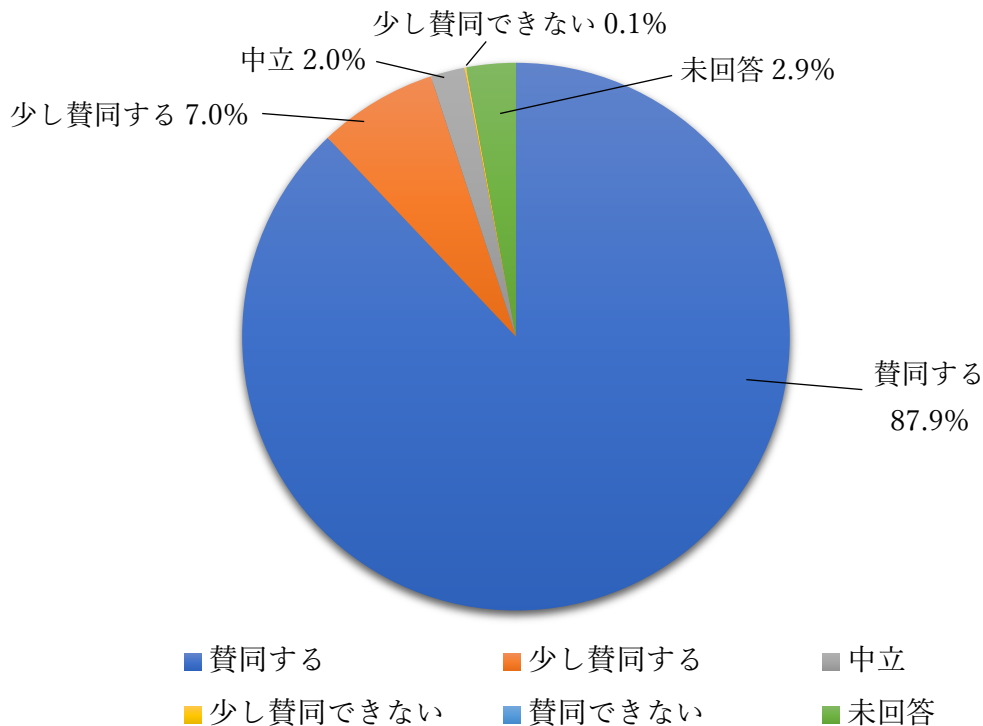


図1 「認知症ポジティブ」への賛否